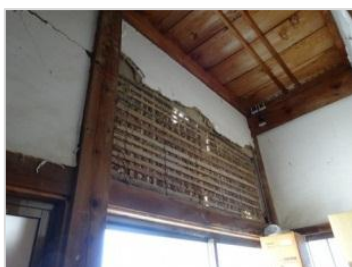


寺院:福島県第14教区第254番同慶寺
 住所:福島県南相馬市小高区小高上広畑246

<p>寺院の被害</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震と原発事故による放射能汚染により、およそ1年間立ち入りが禁止されたため、建物全体が痛んだ。 ・本堂、庫裡は半壊、他の建造物が一部損壊している。応急手当済み。 ・境内の土木構造物にも被害が生じている。
<p>寺院の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は避難指示解除準備区域ということで、立ち入りは自由だが、居住及び宿泊が認められていないため、住職はほぼ毎日、往復3時間かけて通っている。家族と一緒にいる時間が少なくなった。 ・二世帯同居だったが、別々の生活になった。 ・放射線の影響があり寺院所在地の放射線量は、子育てをするには適していないと考えているが、行政の除染は進んでいない。 ・帰郷できない、檀信徒の離散や放射能汚染の問題、後継者問題、家族が避難を強いられていること、経済的な問題等、様々な困難を抱えており、先の見通しが立たない状況に精神的にも肉体的にも疲労している。
<p>檀信徒の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・檀信徒の九割以上が避難生活中。 ・悩んだ末、新居を建てたり中古物件を求める方も多い→元の地域の崩壊。 ・地元に近いところに避難しているお年寄りと、放射能から子供たちを守りたい若い世代が一緒に住めていない。 ・転居先が不明な方もおり、数軒が離檀した。
<p>地域の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大地で口に入れる作物を育てることが出来ない。育てても食べられない。子や孫に食べさせられない。 ・水道水はヨウ素とセシウムしか計っていないので、ストロンチウムやトリチウムなど水溶性核種の事を考えると心から安心して飲むことができない。 ・大地や海で自給自足が厳しくなったことは致命的だと思っている。
<p>復興の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この大変さ、厳しさは、住んでみなければ分からないと思う。 ・放射能汚染被害により、復旧の目途は立っていない。 ・寺院の復旧は難しいが、諦めなければ、なせばなる。

(H25.10.11 現在)



本堂内部の壁は崩落したままである。外部の壁は、コンクリートパネルを貼って応急処置をしている。庫裡玄関前等のコンクリート部分は、亀裂が入ったままである。(撮影日 H25.9.27)